

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503486		
法人名	(株)ゆうらく		
事業所名	高齢者グループホーム「遊楽館」平岡		
所在地	〒004-0874 札幌市清田区平岡4条1丁目12-4		
自己評価作成日	令和6年8月15日	評価結果市町村受理日	令和6年9月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者様をご本人らしく安心して楽しく生活できるよう支援を行っています。</li> <li>職員が明るく、仕事の上達の早さに関係なく、職員一人一人の個性を生かした関わりを持ちながら良い環境作りを努めております。</li> <li>おいしくてなるべく温かい食事を提供できるよう心がけています。</li> <li>毎日楽しいアクティビティを行い、例年は毎月の外出レクリエーションや年間行事に力を入れていきます。夏祭りは地域の方にも声がけて参加していただいたり、入居者様がいつでもお庭の散策を楽しめるよう、こまめに庭を整備し花をたくさん植えました。入居者様やご家族様・来客者から好評で近所の方も見に来られます。</li> <li>主治医やご家族様、職員と話し合いをし終末期を過ごせるようケアを行っています。</li> </ul>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年9月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>商業施設や公園に程近い距離に立地する開設19年目の事業所である。建物は鉄筋コンクリート造2ユニット構造で、玄関前は庭や美しい植栽、いくつかのベンチを置き、外出前後の休憩や日光浴を兼ねた語り場となっている。内部の居室や共有スペースも広くゆとりのある住環境である。法人は他に2つの介護保険事業所を運営しており、社内研修や会議、委員会等で連携し合い質の維持と向上に取り組んでいる。地域交流では学童保育の子ども達が手作りの絵馬やカードにメッセージを添えプレゼントに訪れ、今年の夏祭りはやむ無く中止となったが高校からテントの貸し出しが得られたり、ボランティア部との交流も模索している。運営推進会議への家族の参加が10名以上と大変多く、忌憚のない意見や要望、質問が出され、それらを貴重なものとして適宜運営に反映させ、時間をずらしたユニット単位での開催も視野に入れ、会議推進に向けている。近郊へのドライブ外出や散歩も気軽に出かけ、家族との外出、外泊など馴染みの場所や人との関係継続の支援にも力を入れ、今後はスーパーマーケット等への買い物支援により利用者の生活の幅を広げる事としている。利用者カンファレンスも毎月実施し、今後のよりよい支援を導き出している。職員の優しさが伝わる、施設内の雰囲気がよく、家族の評価も高い。介護支援の専門家として利用者日々向き合い、「わたしたちはあなたの孫の手になりたい」との理念実践に取り組んでいる事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務室など目に付くところに理念を掲示し、意識して見るようにしている。実践できるよう心がけている。	法人運営方針の8つの文言を事業所理念としており、事業所要所への掲示やパンフレットに明示している。新入職員への説明の他、職員個別面談の際に理念について確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはコロナ感染後、希薄になっているが、徐々に地域交流を図る為に活動していきたい。	近隣住民が畑作業に協力したり夏祭りに西瓜の寄贈を受けている。学童保育の子ども達が手作り作品を届けに来たり、地区の高校とも行事を通じ、徐々に交流を持ち始めている。町内会との交流に取り組む予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は大勢のご家族様や地域包括支援センター職員に来て頂いている。その際に認知症について議論の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に一度定期的に入居者様・ご家族様・包括支援センター職員・近隣の方と行っている。	令和6年6月、8月は感染症対策により書面開催であったが、参集開催にあつては家族参加が10名以上と大変多く、事業所からの報告とともにメンバーからの意見、要望等を受け、双方向的な会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問があれば市担当者を通じて解決策を見出している。	市の担当者とは、法人本部が制度に係る案件で意見を仰いだり、管理者は、電子データによる事故報告の書類提出、管理者会議の出席、本部経由で困難事例を相談するなど、協働関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を施設内で作り、毎月話し合いを行い全体会議で伝達している。また、年に4回ゆらくの身体拘束・虐待防止委員会で社内研修を行い、全職員に伝達し情報共有と実践に努めている。	身体拘束適正化、虐待防止の指針を定め、毎月、事業所単独で身体拘束・虐待防止委員会を開催し、加えて委員会内でこれらに係る資料研修を実施している。委員会の内容については、利用者の事例を用い深めていく事も検討している。事業所玄関、ユニット玄関は防犯、事故防止により24時間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を施設内で作り、毎月話し合いを行い全体会議で伝達している。また年4回ゆらくの身体拘束・虐待防止委員会で社内研修を行い、全職員に伝達し情報共有しお互いで声を掛け合うなど意識し防止に努めている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	答えられるように学習や準備はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、利用者様やご家族様の質問や不安にお答えしながら、十分な説明を行い契約させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見には耳を傾けて、都度納得していただけるよう回答している。運営推進会議等を活用して意見や要望について議論を行っている。	家族からは訪問診療や外出支援等について率直な意見や質問が出されており、その都度の説明や支援に反映させている。利用者からの「帰りたい」との意見が出た場合には家族に連絡し本人が安心できる対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で意見や提案があれば耳を傾け、また疑問や意見があればすぐ上司に聞けるようになっていく。毎月の職員会議でも意見や提案を行っている。	代表者は、必要に応じ全体会議や介護保険制度に係る説明等で運営推進会議に出席するなど現場を訪れている。管理者は、年2回の職員個別面談や全体会議、毎月のユニット会議等で意見を聞き、運営や支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定等、職員が直ぐに確認できるような保管場所を設置している。人事考課表の一環として成長シートを活用して、向上心を持ち取り組んでいける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	成長シートを活用し、目標を設定し、自己評価を行いながら面談を行っている。また、法人内外の研修に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会は実施しており、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントをしっかりと取り、職員間で情報共有し、安心してサービスを受けてもらえるようにしている。ご本人の話を傾聴し信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意見や要望をお聞きし、ケアプラン作成にご家族様の意見も取り入れるなど配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族にそれぞれ話を聞き、現時点での介護サービスが何か、助言させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見を第一に関係を築き、出来る事はしていただいたり、またご本人の能力や興味のある事を見極め生き生きと生活できるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時や電話などで日々の様子をお伝えしたり定期的に施設だよりを配布し状況を伝えている。また、必要に応じてカンファレンスを開催したり、運営推進会議等で意見交換を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ入居されてからも、自宅へ外出されたり外泊されたりと、ご家族様や馴染みのある方々との関係性を保っている。	面会は事前予約制とし、相談コーナーや居室にて対応している。家族と墓参や法要に出かけた利用者や外食、外泊する方もいる。感染症の流行期は、無料ビデオ通話やリモート機器を使用し、顔が見える環境も整え関係性の継続に取り組んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが苦手な方やお話できない方には、必要に応じて職員が間に入り他者様とも楽しい時間が持てるよう、孤立しないよう支援を行っている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者が少ないが、ホームで亡くなった方のご家族様に時期をみて手紙や電話をしたり、必要に応じて支援は行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や希望に寄り添えるよう努めている。ご本人の意見を尊重し、サービスに取り組んでいる。	言葉や思いの表出が難しい利用者へは、過去の生活日課や状況を振り返り、「本人がどうか」の視点で検討している。必要時に家族とケアカンファレンスを行い現状の説明やニーズの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートで把握したり、ご本人やご家族から話を聞くなど情報収集に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子は個々に記録をして情報共有に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員間での意見を取り入れている。プラン作成前にはご家族の要望も取り入れてカンファレンスで意見やアイデアをもらいプラン作成を行っている。	利用者全員のカンファレンスを毎月実施し、職員意見を取り入れモニタリングしている。介護計画における経過報告書を家族に送付し意見を反映させる仕組みもあるなど、今後のより良い支援のための介護計画を関係者間の意見を踏まえ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを公用書にしているが、職員がすぐに情報がわかるよう日報や温度版、排泄表にも記録し介護計画に沿った支援を行っている。特変があれば全職員認識できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気付いたことはすぐに上司や医療機関・ご家族に報告を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の中には、外部からマッサージを依頼して活用されている方もおり、地域資源の一貫として取り組んでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されている方は、ホームの訪問診療医を利用されており、月に2回の訪問診療で主治医と相談等の連携も取れている。また必要に応じた医療を受けられるようになっている。	月2回の内科協力医療機関による訪問診療、必要時の歯科往診、看護師による週1度の健康管理支援の体制を整え、皮膚科、整形外科の他科受診は事業所でも対応している。受診状況はタブレットに記録し適宜家族と情報共有している。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は常駐していないが、週に一度の健康管理指導の際には、入居者様の様子を伝え、情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかに情報提供できるようフェイスシートを準備し、医療機関との連携を図っている。入院期間中は、病院と情報交換はこまめに行うようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からご家族に説明がありご家族からの要望を聞き、職員を交えて今後の話し合いを行うなど支援している。ご家族には契約時に重度化の指針や終末期時の対応についての同意書を交わしている。	重度化した場合の対応指針、看取りに関する指針を利用契約時に説明し同意を得ている。医師の判断に基づき、関係者間でカンファレンスを開催し今後の方針を定めている。職員はターミナルケアに関する研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習など、緊急時に慌てる事がないように日頃から取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間の火災避難訓練、地震訓練、水害による垂直避難訓練を実施し、反省や評価を踏まえて再度マニュアル作成を行った。訓練に参加できなかった職員にもマニュアルを渡している。	令和5年9月に日中想定地震・火災避難訓練、今年1月に夜間想定火災避難訓練を行った。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画は、所要の改訂を行っているところである。	災害時における、地域の協力体制の構築に向け取り組む事としているので、実現に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や背景を尊重し、対応している。	毎月の資料研修や職員個々に実施するeラーニング学習の他、ユニット会議で適正な支援を確認している。個人記録類はタブレット、PC内に収めている。	接遇に関し今一度振り返る事を目的に、現実に似せた場面で、ある役割を模擬的に演じるロールプレイング研修を行う予定であるので実施に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定ができるよう配慮している。表すことができなかつたり難しい方には働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを崩さず、なるべくその方らしく生活できるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自ら、洋服を選んでいただくなど、声掛けや支援を行っている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人好みのメニューは難しいが、なるべく皆さんがおいしく召し上がれるよう味付けや彩りなど工夫している。洗い物などできる方は感染予防に十分配慮している。	法人の栄養士がバラエティ豊かに行事食も盛り込んだ内容で献立し、給食委員会や社内会議を通じ、希望を反映させる仕組みがある。盛り付けも彩り良く、利用者は可能などところで食事作業に携わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示が必要な方は、指示を仰ぎ注意をしながら支援を行っている。食量・水分摂取量をしっかり記録し、水分の不足がないよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声かけを行い、できない方には介助を行っている。歯科衛生士により、毎月口腔ケアに関する指導を受けており参考にしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体が不自由な方でも、可能な限りトイレで排泄できるような支援を行っている。排泄表を使って個々の排泄間隔を把握し、声かけや介助を行い気持ちよくトイレで排泄できるよう配慮している。	重度化の方で、本人がオムツ、ベッド上での交換を望まない場合は日中帯は職員2名介助でトイレでの排泄支援を行っている。利用者の様子や排泄表で間隔を確認し、声かけや誘導を行い、本人からの同性介助の意向にも対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を主治医と相談し、調整を行っている。指示通りでも排便がない時は主治医に報告し指示を仰いでいる。その他にも水分摂取や乳酸飲料を飲んでいただくなど、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居様の意向を伺いながら、楽しんで入浴できるよう配慮している。「入りたくない」と話される時は翌日に再度声かける等の工夫をしている。	入浴前のバイタル測定時に利用者とコミュニケーションを取り、入浴の意向を確認し、その時点で難しい場合は、体操後や日にち、声かけの職員を変えるなどしてスムーズな入浴となっている。1人ひとり湯を交換し、柚子、菖蒲湯も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の日中の様子や夜間の様子など職員で情報共有し、十分に休息がとれるよう支援している。夜間も定期的に巡回を行い様子を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的を理解し、処方内容が変わった時は必ず職員全員がわかるようにしている。ご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に興味のあるものやお好きな事を楽しんでいただけるよう支援している。また、手伝っていただければお願いし役割を持っていただいている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は月に一度以上の外出レクリエーションや気軽に散歩や庭を楽しむなど行っている。	天候、外気温に配慮しつつ玄関前のベンチで庭の美しい景観を眺めながらの日光浴や周辺の散歩を行っている。桜見学が可能な公園や樹芸センター、野球場などヘッドライブに出かけている。家族と外出する利用者もいる。買い物支援を検討中である。	感染症5類移行ともなり、今後は利用者がスーパーマーケットなどに出かけ、買い物などができる支援を検討しているので、実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解ができない方が多く、ご家族と相談し少ない金額ではあるが用意し所持している方もいる。執着や理解がないためよくなくされてしまい、職員も管理が難しい時はご家族様が管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて支援している。手紙のやりとりはできない方が多いが、電話を希望される方には要望があればつないでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と装飾品を作ったり、クリスマス・お正月・おひなさまなど行事や季節の飾りつけをできる方は職員と一緒に楽しんでいる。	外玄関は美しい植栽でベンチも置き、内玄関も広く居心地よい環境である。全体的に明るく大変広い作りで利用者の居場所の工夫や、行事、レクリエーションをする際もゆとりがある。トイレも十分な広さがあり車椅子での移動も容易である。食堂・居間に2台の業務用エアコンを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配置や座席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの服や小物・家具や思い出の品など持ってきていただき安心して過ごしていただいている。	居室にはベッドのほか、窓際下の収納棚カウンター、照明器具、カーテン等の備え付けがある。テレビや冷蔵庫、これまで使い慣れた家具や調度品など、本人、家族の希望に応じ持ち込まれ、安心して過ごせる環境をサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる方、自立ができない方の個々に合わせ、1人1人に合った支援を行っている。トイレなど場所や物の置き場など、わかりやすいよう適宜改善している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503486		
法人名	(株)ゆうらく		
事業所名	高齢者グループホーム「遊楽館」平岡		
所在地	〒004-0874 札幌市清田区平岡4条1丁目12-4		
自己評価作成日	令和6年8月15日	評価結果市町村受理日	令和6年9月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170503486-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年9月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>入居者様がご本人らしく安心して楽しく生活できるよう支援を行っています。</li> <li>職員が明るく、仕事の上達の上達に関係なく、職員一人一人の個性を生かした関わりを持ちながら良い環境作りを努めております。</li> <li>おいしくてなるべく温かい食事を提供できるよう心がけています。</li> <li>毎日楽しいアクティビティを行い、例年は毎月の外出レクリエーションや年間行事に力を入れていきます。夏祭りは地域の方にも声がけて参加していただいたり、入居者様がいつでもお庭の散策を楽しめるよう、こまめに庭を整備し花をたくさん植えました。入居者様やご家族様・来客者から好評で近所の方も見に来られます。</li> <li>主治医やご家族様、職員と話し合いをし終末期を過ごせるようケアを行っています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務室など目に付くところに理念を掲示し、意識して見るようにしている。実践できるよう心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりはコロナ感染後、希薄になっているが、徐々に地域交流を図る為に活動していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は大勢のご家族様や地域包括支援センター職員に来て頂いている。その際に認知症について議論の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度定期的に入居者様・ご家族様・包括センター職員・町内会長・近隣の方と行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問があれば市担当者を通じて解決策を見出している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を施設内で作り、毎月話し合いを行い全体会議で伝達している。また、年に4回ゆうらくの身体拘束虐待防止委員会で社内研修を行い、全職員に伝達し情報共有と実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を施設内で作り、毎月話し合いを行い全体会議で伝達している。また年4回ゆうらくの身体拘束・虐待防止委員会で社内研修を行い、全職員に伝達し情報共有しお互いで声を掛け合うなど意識し防止に努めている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	答えられるように学習や準備はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ、利用者様やご家族様の質問や不安にお答えしながら、十分な説明を行い契約させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見には耳を傾けて、都度納得していただけるよう回答している。運営推進会議等を活用して意見や要望について議論を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で意見や提案があれば耳を傾け、また疑問や意見があればすぐ上司に聞けるようになっている。毎月の職員会議でも意見や提案を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や給与規定等、職員が直ぐに確認できるような保管場所を設置している。人事考課表の一環として成長シートを活用して、向上心を持ち取り組んでいける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	成長シートを活用し、目標を設定し、自己評価を行いながら面談を行っている。また、法人内外の研修に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での勉強会は実施しており、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントをしっかりと取り、職員間で情報共有し、安心してサービスを受けてもらえるようにしている。ご本人の話を傾聴し信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	意見や要望をお聞きし、ケアプラン作成にご家族様の意見も取り入れるなど配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族にそれぞれ話を聞き、現時点での介護サービスが何か、助言させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見を第一に関係を築き、出来る事はしていただいたり、またご本人の能力や興味のある事を見極め生き生きと生活できるよう支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時や電話などで日々の様子をお伝えしたり定期的に施設だよりを配布し状況を伝えている。また、必要に応じてカンファレンスを開催したり、運営推進会議等で意見交換を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームへ入居されてからも、自宅へ外出されたり外泊されたりと、ご家族様や馴染みのある方々との関係性を保っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりが苦手な方やお話しできない方には、必要に応じて職員が間に入り他者様とも楽しい時間が持てるよう、孤立しないよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象者が少ないが、ホームで亡くなった方のご家族様に時期をみて手紙や電話をしたり、必要に応じて支援は行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向や希望に寄り添えるよう努めている。ご本人の意見を尊重し、サービスに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートで把握したり、ご本人やご家族から話を聞くなど情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子は個々に記録をして情報共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員間での意見を取り入れている。プラン作成前にはご家族の要望も取り入れてカンファレンスで意見やアイデアをもらいプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを公用書にしているが、職員がすぐに情報がわかるよう日報や温度版、排泄表にも記録し介護計画に沿った支援を行っている。特変があれば全職員認識できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気付いたことはすぐに上司や医療機関・ご家族に報告を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の中には、外部からマッサージを依頼して活用されている方もおり、地域資源の一貫として取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居されている方は、ホームの訪問診療医を利用されており、月に2回の訪問診療で主治医と相談等の連携も取れている。また必要に応じた医療を受けられるようになっている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師は常駐していないが、週に一度の健康管理指導の際には、入居者様の様子を伝え、情報共有を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には速やかに情報提供できるようフェイスシートを準備し、医療機関との連携を図っている。入院期間中は、病院と情報交換はこまめに行うようにしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からご家族に説明がありご家族からの要望を聞き、職員を交えて今後の話し合いを行うなど支援している。ご家族には契約時に重度化の指針や終末期時の対応についての同意書を交わしている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED講習など、緊急時に慌てる事がないように日頃から取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間の火災避難訓練、地震訓練、水害による垂直避難訓練を実施し、反省や評価を踏まえて再度マニュアル作成を行った。訓練に参加できなかった職員にもマニュアルを渡している。			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や背景を尊重し、対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定ができるよう配慮している。表すことができなかつたり難しい方には働きかけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人のペースを崩さず、なるべくその方らしく生活できるよう関わっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自ら、洋服を選んでいただくなど、声掛けや支援を行っている。			

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人好みのメニューは難しいが、なるべく皆さんがおいしく召し上がれるよう味付けや彩りなど工夫している。洗い物などできる方は感染予防に十分配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示が必要な方は、指示を仰ぎ注意をしながら支援を行っている。食事量・水分摂取量をしっかり記録し、水分の不足がないよう気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声かけを行い、できない方には介助を行っている。歯科衛生士により、毎月口腔ケアに関する指導を受けており参考している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体が不自由な方でも、可能な限りトイレで排泄できるような支援を行っている。排泄表を使って個々の排泄間隔を把握し、声かけや介助を行い気持ちよくトイレで排泄できるよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を主治医と相談し、調整を行っている。指示通りでも排便がない時は主治医に報告し指示を仰いでいる。その他にも水分摂取や乳酸飲料を飲んでいただくなど、工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居様の意向を伺いながら、楽しんで入浴できるよう配慮している。「入りたくない」と話される時は翌日に再度声かける等の工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の日中の様子や夜間の様子など職員で情報共有し、十分に休息がとれるよう支援している。夜間も定期的に巡回を行い様子を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の目的を理解し、処方内容が変わった時は必ず職員全員がわかるようにしている。ご家族にも報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に興味のあるものやお好きな事を楽しんでいただけるよう支援している。また、手伝っていただくことがあればお願いし役割を持っていただいている。		

高齢者グループホーム「遊楽館」平岡

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は月に一度以上の外出レクリエーションや気軽に散歩や庭を楽しむなど行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解ができない方が多く、ご家族と相談し少ない金額ではあるが用意し所持している方もいる。執着や理解がないためよくなくされてしまい、職員も管理が難しい時はご家族様が管理。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	状況に応じて支援している。手紙のやりとりはできない方が多いが、電話を希望される方には要望があればつないでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と装飾品を作ったり、クリスマス・お正月・おひなさまなど行事や季節の飾りつけをできる方は職員と一緒に楽しみまわっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	配置や座席を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの服や小物・家具や思い出の品など持ってきていただき安心して過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる方、自立ができない方の個々に合わせ、1人1人に合った支援を行っている。トイレなど場所や物の置き場など、わかりやすいよう適宜改善している。		